霜の夜

今瀬剛一

いつの間に五人となりし日向ぼこ

気がつけば流されてゐし月見舟

銀杏散る流されまいとして歩く

烏瓜光源氏はひとり寝て

菊菊菊投げ捨ててある怒り顔

霧流れ去りたる後も楠大樹

紅葉降り重ねて汚れてはならぬ

唐辛子騒ぐを一把一絡げ

また母の泣く雪空となりしかな

しづもれる魂埋火を仕舞ふ

霜の夜や大歳時記を二つ割り

故郷や舐めて湿らす独楽の紐

足踏みをしつつ旧年耐へてをり

最終楽章草の絮よく飛ぶ日

廃船の如くに日向ぼこをせり